

平成28年度協働のまちづくりモデル事業（集落・町内会・自治会対象枠）申請一覧

合計 1 件 （城端 0 件、平 0 件、上平 0 件、利賀 0 件、井波 0 件、井口 0 件、福野 0 件、福光 1 件）

No.	1. 地区名	地域名	事業区分	3. 事業実施期間	4. 地域の概要		5. 地域の現状と課題	6. まちづくりの基本方向	7. 事業計画 (右側事業費内訳は単位：千円)
1	在房自治会	福光	⑤まちづくり事業 ⑥地球にやさしいまちづくり事業	29年度～31年度	人口 164	世帯 40	<p>【地域の現状】</p> <p>①当地区は、環境保全推進員委員会組織によるピオトープをはじめとした環境向上活動を盛んに取り組んでいる。虫の増殖活動のために環境水路の維持管理や花壇整備、ひまわり栽培による環境保全などの取り組みが盛んである。</p> <p>②しかしながら、営農組織が立ちあがり農作業の効率化が図られたことに伴い、高齢者の活動の場の減少、若者の意識の変化によって、世代間の結びつきが希薄（戻ってこない、同居しない）になってきた。少子化（現在地区内に児童は4名しかいない）に拍車がかかり、児童が主役の育友会活動も出来ない状況となっている。</p> <p>【地域の課題】</p> <p>①少子高齢化の根底には、地域にある各種団体の分団化がある。この事業をきっかけに再構築を図り各種団体の結びつきを深めつつ、若者が定着し、3世代が同居して安心して暮らせる地域づくりを進めることが肝要である。</p> <p>②数年前に当地区を地縁団体登録し、すべての財産を自治会・法人在房名義にしたところであるが、対象地区の土地整備換地の際に、与えられた場所が人力以外何もできない場所であった。そのために当地区では場所も離れていたこともあり耕作放棄となった。この放棄地の取り扱いに苦慮しており、その利活用が求められている。</p>	<p>国の政策として里山の再生事業が盛んである。対象の地域はまさに山林の麓里山に該当する場所である。当地区の財産は、山林も抱えており、自治会主催の樹木育成活動も継続している。</p> <p>この山林と放棄地を有機的に結び付けて活用することが、当地区並びに国の有形の財産として残せるものと考えられる。</p> <p>また、さらに発展させ、自然に触れ合うことによる幼少期からの人間形成の場として活用し、自然の大切さを知る人格を輩出するという無形の財産を産むものとする。</p> <p>【活用方法】</p> <p>①山林、畑地それぞれを農業体験、共同作業の場にする。この地に適したさつまいもなどの農作物などを栽培収穫し、小学生における知識を実践し、体験することにより、自然の恵み、感謝を身につけさせる。もって地域のリーダー育成を図るものである。</p> <p>②当地区の山林はワサビも自生する場所であるが、砂防ダムの築造により生育環境も変化しつつある。山に親しみ、保全を手掛けることで水脈を確保し、生育環境の復元を図り、希少植物の維持繁殖を図っていくものである。</p> <p>他の山菜の確認や勉強会、採取体験を通じて山に恵みを体感する。</p>	<p>[平成29年度]</p> <p>【活用方法①について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・耕作地の整備（木の株、岩の除去、雑草、落ち葉をすき込み畑地の生成）</li> <li>・芋の定植と収穫（感謝の意味を含め、自治会内全戸配布）</li> </ul> <p>【活用方法②について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山わさび畑の現状把握と再生計画</li> <li>・山林隣地境界確認の山周り実施</li> </ul> <p>[平成30年度]</p> <p>【活用方法①について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度の反省を踏まえ、芋の品種の見直しと定植、栽培</li> <li>・来期へ向けての有機肥料作物の定植（菜の花、レンゲなど）</li> <li>・収穫物は北山田文化際、軽トラ市場や道の駅などで販売</li> </ul> <p>【活用方法②について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・在房山歩きマップの作成と標識の設置（子供にポスター標識の依頼）</li> <li>・山わさび畑の復元作業の実施</li> <li>・山菜の学習会の開催とその収穫実施活動（自然ふれあい体験）</li> </ul> <p>[平成31年度]</p> <p>【活用方法①について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度の反省を踏まえ、芋の定植、栽培。</li> </ul> <p>【活用方法②について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山ワサビ畑の復元作業の継続</li> <li>・三世代間共同作業の実施（婦人会・育友会・老人会・地域の人材を総動員して、加工食品の検討と製造の実施）</li> </ul> <p>【全般】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動経過をまとめ、活動のしめくりを見える化する。その中に、協働まちづくり事業のPRを盛り込む</li> </ul>